

【イルベサルタン錠 200mg 「ケミファ」】  
溶出試験に関する資料

日本ケミファ株式会社

● 目的

イルベサルタン錠 200mg「ケミファ」と標準製剤の溶出挙動の類似性を検討するため、「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン」に従い溶出試験を実施した。

● 使用製剤

試験製剤：イルベサルタン錠 200mg「ケミファ」

標準製剤：アバプロ錠 200mg

● 試験条件

溶出試験法：パドル法

試験液：50rpm pH1.2、pH3.0、pH6.8、水

100rpm pH6.8

検体数：各製剤ともに12ベッセル

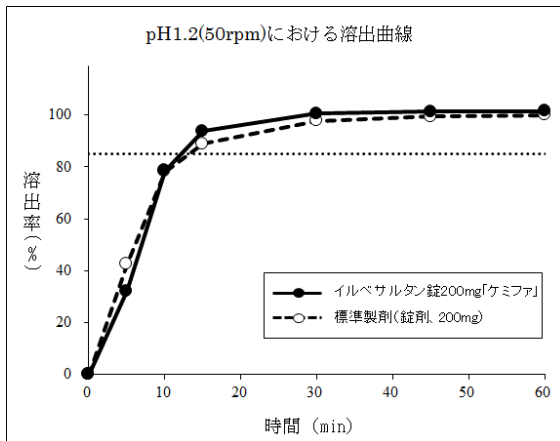
判定基準：

回転数	試験液	判定基準
50rpm	pH1.2	試験製剤が15分以内に平均85%以上溶出するか、又は15分における試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にある。
	pH3.0	標準製剤が規定された試験時間における平均溶出率の1/2の平均溶出率を示す適当な時点、及び規定された試験時間において、試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±9%の範囲にあるか、又はf2関数の値が53以上である。
	pH6.8	標準製剤の平均溶出率が約40%及び85%付近となる適当な2時点において、試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にあるか、又はf2関数の値が42以上である。なお、比較時点が15分未満であったため、ガイドラインに従って15分で評価することとした。
	水	標準製剤が規定された試験時間における平均溶出率の1/2の平均溶出率を示す適当な時点、及び規定された試験時間において、試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±9%の範囲にあるか、又はf2関数の値が53以上である。なお、比較時点が15分未満であったため、ガイドラインに従って15分で評価することとした。
100rpm	pH6.8	標準製剤の平均溶出率が約60%及び85%付近となる適当な2時点において、試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にあるか、又はf2関数の値が42以上である。なお、比較時点が15分未満であったため、ガイドラインに従って15分で評価することとした

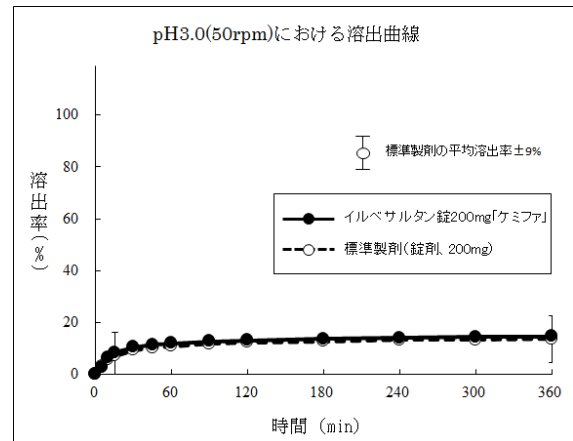
● 結果

回転数	試験液	比較時間 (分)	平均溶出率(%)		両剤剤の 差(%)	判定基準	判定
			標準製剤	試験製剤			
50 rpm	pH1.2	15	88.8	93.7	4.9	15分で試験製剤の平均溶出率が85%以上又は±15%	適合
	pH3.0	15	7.2	8.4	1.2		
		360	13.7	14.6	0.9		
	pH6.8	15	65.1	63.2	-1.9	±15%	適合
		45	86.9	87.5	0.6		
	水	15	8.7	7.6	-1.1	±9%	適合
360		13.9	12.7	-1.2			
100rpm	pH6.8	15	74.1	75.5	1.4	±15%	適合
		30	85.9	87.5	1.6		

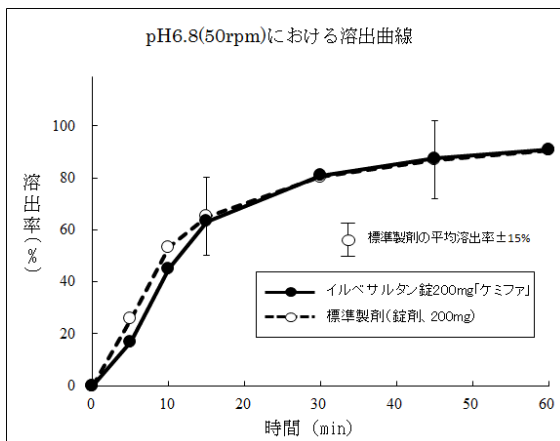
pH1.2 (50rpm) における溶出曲線



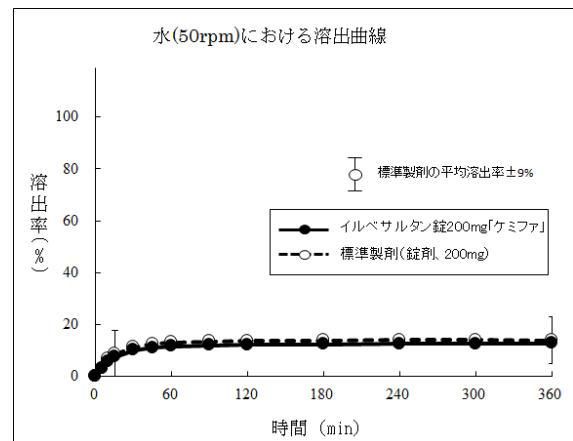
pH3.0 (50rpm) における溶出曲線



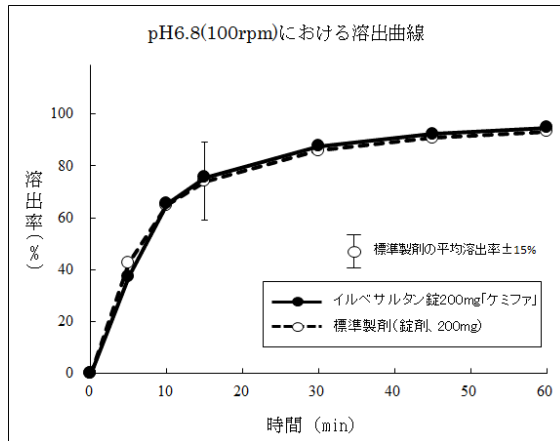
pH6.8 (50rpm) における溶出曲線



水 (50rpm) における溶出曲線



## pH6.8 (100rpm) における溶出曲線



### ● 結論

イルベサルタン錠 200mg 「ケミファ」と標準製剤であるアバプロ錠 200mg について、後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドラインに従って溶出試験を実施した結果、両製剤の溶出挙動の類似性が確認された。

日本ケミファ株式会社：溶出試験に関する資料（社内資料）

2017年8月作成